

SOTO禅インターナショナル

発行日 1997年1月15日 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒361埼玉県行田市下中条1619-2
 Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

第 9 号



ハワイ・マウイ満徳寺創立90周年記念法要記念写真

主な内容

巻頭 「日本の玄関としての総持寺」 大本山総持寺監院 江川辰三
 特集 ハワイ・マウイ満徳寺創立90周年記念法要
 仏教国際親善の旅レポート 愛知県・地蔵寺副住職 浅井宣亮
 ワークショップ・レポート 愛知県・長松院住職 篠田一法
 海外レポート 「第10回世界宗教者会議平和の集い」参加レポート
 東京都・長泰寺副住職 大谷有為

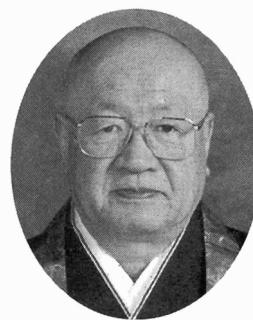
SZ I だより 事務局活動日誌
 新規会員&継続会員名簿
 特別寄付者
 マウイ満徳寺参拝団名簿
 総会・講演会ご案内
 北米75周年記念法要へのお誘い
 編集後記

洞禅の海外布教にも積極的に取り組んでいます。

すなわち日本の玄関として、総持寺は自覚をもって活動して参りましたが、諸外国との交流及び曹洞禅の海外布教にも積極的に取り組んでいます。

このように首都圏に位置する大本山総持寺は、外国からの観光客も多く、都会の中にあるオアシスの禅寺の雰囲気味わって戴いておりますが、参禅希望の外国人も年々増えています。

ご承知の如く総持寺は能登の門前町より移転して八十六年を経ております。その移転の目的は、新しい時代の流れの中での仏法興隆と、より多くの人々への布教を目指すものであります。この先人たちの意思は見事に実現し、現在の本山の隆昌を見るに至っています。



日本の玄関としての総持寺

大本山総持寺監院 江川 辰三

組んでおります。成田芳髓新禅師様は、海外開教の御経歴がありまして、海外事情には多大の関心を寄せておられ、特に海外で曹洞禅の挙揚に尽力されている方々には敬意と感謝の念厚くいつしやいます。先般も晋山式の前日にもかかわらずドイツで禅センターの堂長として活躍している天竜テンブロウ夫妻に快く相見され、一時間も歓談されるという一幕もありました。小柄も欧米の禅道場のみでなく、アジアの仏教諸国との交流、友好の大切さを実感しており、昨年八月には、愛知県仏教会の岩田会長と共に中国を訪れ、日本人として三蔵の称号を受けた靈仙三蔵の所縁の地、五台山靈境寺に墓塔を建立し、日中合同法要の導師を勤めさせていただきました。微力ながら、佛法興隆と日中友好に協力できましたことは、有り難き報恩行と感謝しております。

このような国際交流の益々盛んな時期にSOTO禅インターナショナルの活動には発足当時より注目して参りました。今後とも宗務庁、両大本山とも連携をとりながら益々活躍されんことを切に祈念致しております。

特集

ハワイ・マウイ満徳寺創立九〇周年記念法要
仏教国際親善ハワイの旅レポート

禅を聞く会&シンポジウム

ゲストスピーカー
ベナーージュ大円師

一五〇名余の出席者を集めた中、午後四時より開会式が行われ、現地の方の歓迎の後、日本側を代表して大竹明彦事務総長が挨拶を行った。大竹総長は、「一般に禅は難しいと考えられている場合が多い。しかし、これからは積極的に禅の理解を広めていく必要が

愛知県・地藏寺副住職 浅井宣亮

一九九六年十一月十五日から二十一日にかけて、SOTO禅インターナショナルにとって、初の海外研修旅行となる「マウイ満徳寺創立九〇周年記念法要 仏教国際親善ハワイの旅」が開催された。

十六日には、マウイ・パームス・ホテルにおいて、「禅を聞く会」と「文化と宗教」に関するシンポジウム。十七日には、「満徳寺九十周年記念法要式典」。その後、ホノルルに移動し、十八日、ハワイ別院に拝登した。

ある。この「禅を聞く会」がハワイにおいて開催されることは、非常に有意義なことである。」と感想を述べられた。

そしてペンシルバニア在住の開教師ベナーージュ大円師により、「禅について」と題する講演と、坐禅指導が行われた。要約は以下の通り。

「一〇〇年ほど前に、禅は釈宗演老師によりアメリカに紹介されました。しかし当時、

禅は哲学として受け取られていました。戦後になると、カプロー氏により修行としての禅が始められるようになりま

す。曹洞禅はサンフランシスコの桑港寺の鈴木俊隆老師により、白人に広められました。しかし、禅が白人のヒッピーの人気を集めるようになると、日系人の檀家との間に摩擦が生じるようになり、俊隆老師

は桑港寺から独立してサンフランシスコ禅センターを創立することになりました。そして、このような二つの流れは、現在にも当てはまると思われます。

ベトナム戦争の泥沼化は、アメリカの若者に大きな苦悩を生じさせました。彼らは、その苦悩からの解放を、坐禅などに求めました。これがアメリカにおいて禅が広まったルーツになっています。

現在のアメリカの状況はこれとは違い、皆、自由を重視し、自由を求めています。しかし、真なる自由は容易に手に入れることはできません。あるベトナムの禅の先生は『不自由から自由は生まれる。』と説いていましたが、これは真実だと思います。

アメリカ人の多くは個人の自由を得るために坐禅を行っています。しかし、坐禅だけでは、宗教の半分しか過ぎません。残りの半分は菩薩戒です。アメリカの参禅者は坐禅重視の傾向が強いが、もっと日常生活に深く入ったものとなる必要でしょう。それは、菩薩の道を実践して

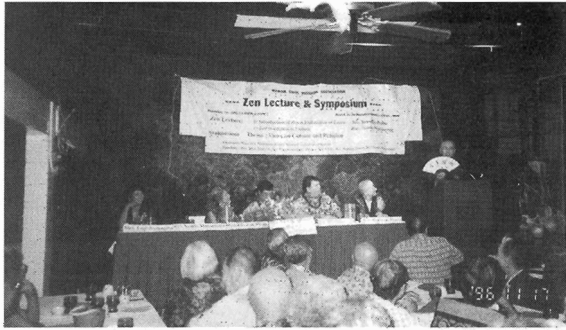
いくことだと思います。

そして、日本人・日系人の場合にはこの逆のことが言えるのではないのでしょうか。

現在わたしは、ペンシルバニアで、禅の指導を行っています。刑務所に服役中の人にも禅を教えています。初めて



マウイ満徳寺本堂、鐘楼、墓地 裏は海



禅を聞く会・シンポジウム 於 マウイ・パームス・ホテル

坐禅をする人にとって、四十分の結跏趺座は、非常に厳しいものです。そこで、最初は“椅子坐禅”を勧めています。また、刑務所では二〇分の坐禅も難しかったので、最初は限界と思った時間にもう一分プラスしただけ坐り、五分の経行をした後、二回目は一回目にもう一分加えた時間坐禅をします。このようにして、坐禅の時間を少しずつ延ばしていきます。

言葉を書くことだけでも、坐禅と同様に大変重要な修行であると考えています。

坐禅は安楽の法門といわれます。楽に坐って、自分が仏であることに目覚めましょう。一分の坐禅でも一切衆生のためになります。刑務所では、坐蒲の身にパンヤは使用できません。その中に、麻薬などを隠すことができるからです。そのため、ビーチボールを代わりに使用しています。ペンシルバニアでは、ジーンズの布であるデニムを使って坐蒲を作ったものもあります。皆さんも、手近にあるもので坐蒲を作って、坐禅を体験してみてください。

近年、臨済宗・三宝教団などはアメリカで急速に広まっています。また、日本以外の禅も広まっています。私は、ベトナムの禅の指導者であるティク・ナット・ハン師の修行に三カ月参加したことがあります。その教えは非常に素晴らしいものでした。しかし、私はその時、曹洞宗の教えのすばらしさも再確認できました。これからのすばらしい教えをみなさんと共に護持



ハレマクア老人ホームへ寄付金贈呈

していきたいと思っています。」

次いで、松永然道SVA会長により「禅と文化について」という題材で講演が行われた。

松永会長の講演は「禅は、不立文字であり、言葉で明確に定義できるものではない。

悟りへの道であると言う人がいるかもしれないが、これは曹洞宗の宗祖である道元禅師により否定されている。現在日本人は、縄文人と弥生人のミックスであると考えられている。また、禅は中国から輸入されたものである。このような事からも、歴史的に見ても日本人は、他者を排除してきたのではなく、それを取り入れ、調和を図ってきたとい

えるだろう。

現在、曹洞宗のボランティア活動として、大竹総長の提言によるグリーンプランが企画されています。これは、タイ・カンボジアの僧侶が行っているボランティアをサポートして、植林などを通じて、環境保護に貢献し、世界平和のための活動を進めていこうとするものです。しかし、世界平和ということ考えたとき、異なった宗教集団の間では、その理想が異なるため、争いが生じることさえあります。それらは平和のための戦い、宗教戦争などと呼ばれてきました。

そうとはいえ、実際の行動を伴わない“祈り”だけでは意味がありません。世界の宗教者が一同に会して行われる“平和の祈り”といった活動は一〇年も前から行われていますが、実際の行動は伴っていません。

自分たちの理想に基づいた都合のいい平和ではなく、また布教を期待するような活動ではないものが、現在求められています。仏教では他者を尊重します。『他をして自に同

ぜしめて後に自をして他に同ぜしむる道理あるべし、』という道元禅師の言葉の通りの態度が必要です。そして、この姿勢は日本文化に歴史的にみられる“他者との調和”とも結び付いているといえるでしょう。」というものであった。

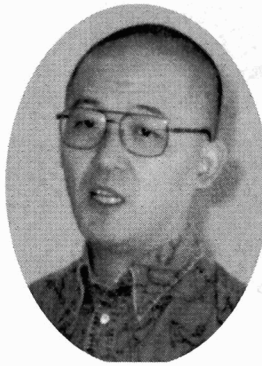
この後、松永然道会長、福島県参拝団を代表し、金平祖隆宗務所長より日系人の多い現地老人ホームに対する寄付が手渡された。また、午前中に開催されたチャリティ・ゴルフからの収益金も飯田光昭老師より同時に手渡された。(次号につづく)



マウイ・ハレマクア老人ホーム

SZー第二回 ワークショップ・レポート

愛知県・長松院住職 篠田一法



篠田一法師

丸師をお迎えし、各々の立場から発表いただいた。各師の発表の要旨は次の通り。

【大森篤史師】

去る十月十六日・十七日の二日間にわたり「文化変容の中で生きるお寺」―伝える手段としてのマルチメディアの可能性と危険と題してワークショップが行われた。

松永然道会長導師のもと、仏祖諷経が行なわれ、その後事務局によりテーマの説明がされた。全曹青パソコン通信研究部の大森篤史師、実際にホームページを開設している亀野哲也師、ならびに西山直彦師の両名、インターネットユーザー側代表として岡野定

*全曹青の紹介のみで構成することは将来的に内容がなくなると考え、本庁出版物の掲載を考えたが、版權、著作権などの問題で断念。

今後なにをどう発信するか再検討中である。

*行事の案内・寺院紹介など曹洞宗へのかかわりのきっかけとなる情報の提供がメインとなっている。

*全曹青のホームページを曹洞宗運営のホームページと考えて電子郵便を送られる方がいる。宗門の顔と見られていするとするならば無責任な内容の公開はできない。

*発信と受信といった電子郵便的な利用でなく、現在徐々に改善されてきているが、掲示板などのような誰もが意見をどんどん読み書きできる場を作る必要を感じている。

*インターネット上での情報発信は対象を限定できないため発信する側のモラルが問われている。

*海外から日本の宗門の情報に気軽に接することができ、海外の禅関係のホームページをある程度目を通し、リンク集などを作ればと思う。

*海外から日本の宗門の情報に気軽に接することができ、海外の禅関係のホームページをある程度目を通し、リンク集などを作ればと思う。

全国曹洞宗青年会ホームページ
<http://www.jtvan.co.jp/~soto/>

【亀野哲也師】

*四月に開設し現在一日のアクセスは、二〇件ほどである。電子郵便は概算で半年三五〇通ぐらい内訳は一般六〇％ 寺院関係二〇％ 檀家一〇％ 海外一〇％と推定できる。

問題点として

*ホームページ作成者の主観による偏った情報となること

*簡単に他人の著作物を引用できるので著作権上の問題が生じる。

*インターネット上では一個人であろうが組織機関であろうが同一に取り扱われてしまう。

*海外からの訪問者にも大筋がつかめるように概略程度は英語力が要求されること

将来性として

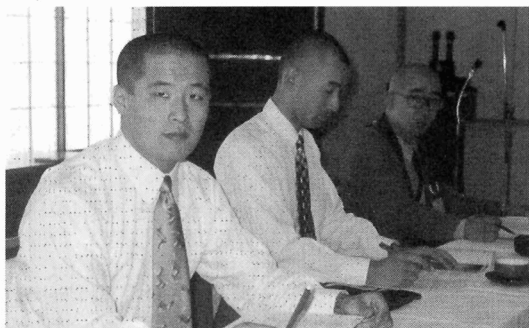
*ブラウザとOSとの融合・インターネット放送・会議システム・バーチャルスペースなどが現在可能であり、布教手段に多くの可能性を持っている。

ホームページ作成の心得

*手作りを基本として可能な限りよく更新をすること

*住職・副住職の声が届くようにする。送られてきた疑問や質問感想には即時に返信すること。

*コンピューター上の仮想寺院で終始しないように現実のお寺とリンクさせていくこと。



左から発表者の西山直彦師・亀野哲也師・大森篤史師

貞昌院ホームページ
<http://www.win.or.jp/~kamen/>



発表する岡野定丸師

【西山直彦師】

* 七月に開設して平均で一日十五件ほどのアクセスがあり、週末に多く時間帯は深夜に増加傾向である。慣習的行事（お盆など）の時期になると増加する。

* ホームページに対する反響は、お寺がホームページということで驚きの声が多いが、お寺・仏事・教えなどが勉強になったという感謝の声などもあり好意的な意見が多い。

* そのお寺の個人的な見解が、宗門の見解と取られる可能性がある。

* 何回も見たいくなるようなページにすること。一般の人にも理解しやすい容易な言葉で書くこと。

面と向かって話すことが苦手な現代人でも気軽に意見交換ができるため、お寺と一般の接点になることだと感じる。

【岡野定丸師】
危険性についての将来的課題

* 情報自体に責任を持たせることによって情報の一人歩きになる危険性を回避する必要がある。

* 作成者などの知的所有権への配慮が現在まだ十分ではない。

* 現在のコンピュータ自体が大衆強化メディアとして適当なものであるのか。導入運用にも金額がかかりすぎる。

* 日本社会での常識的宗教観は、海外でどう受け取られるかを考え、翻訳作業も海外で使える翻訳とするべきではないか。

善徳寺ホームページ

<http://www.big.or.jp/~nao/>

* 知らなくてもよいことを知らせ、知らせなくてはいいけないことを知らせていないようなことはないか。

* 情報が氾濫する中でその情報が正しい情報か間違った情報であるのかチェックする機関が必要ではないのか。

可能性

* 不特定多数に地球規模で自分の意見を発表できることは布教にも可能性が見いだせる。

* 自分の知りたい目的の情報にアクセスしやすく個々の情報交換がやりやすい。

* 情報管理がしやすく訂正検索が容易である。

* 他宗教他宗派を気軽にアクセスでき、海外に至っては有益な情報を容易に入れられる。

この様な各師の意見が発表されたあと、今回コンピュータを持っていない人から使っている人、そして使いこなしている人といった人たちが集まる中、それぞれの人たちが多方面から意見を出した。



会議風景

一日目は、この後、記念撮影をとり終了した。懇親会では、コンピュータの疑問・デジタルカメラの品質ならびに画像処理・出席者の日ごろの疑問を個々に話し合い楽しいひとときを過ごした。
二日目は、最終的な意見交換を行い、SZIのオープン会議が行われ福島事務局長挨拶で閉会となった。

- * ホームページへの接続の仕方。
- * 曹洞宗の偽称を使った情報の危険性はないか。
- * 我々が伝えるべきことはなんなのか。
- * 導入までの金額と実際運用するにあたっての金額は。
- * アナログ回線とデジタル回線のこと。
- * 利用者を限定したホームページは。
- * どこまでその情報が信用できるのか。また、WWWブラウザ名の付け方は。
- などの意見交換がされた。



ワークショップ参加者全員

海外レポート

第十回世界宗教者会議平和の集い

東京都・長泰寺副住職(事務局) 大谷 有為

去る十月七日から十月十日までの四日間、イタリアの首都ローマで『世界宗教者会議・平和の集い』が開催された。この会議は、ヨハネ・パウロ二世の呼びかけにより、一九八六年にイタリア中西部アッシジで第一回が開催されて以

来、毎年行われ、今回で早くも十回目を数える。

イタリアに本部を置く聖エディジオ共同体の主催のもと、仏教、カトリック、プロテスタントを始めとする各宗教団体高位聖職者、関係者、また政治界からもイタリア大統領、

国連ユネスコ事務総長、EUヨーロッパ統一議会議長、NGO国際アムネスティ事務局長、その他多数の高官、と

いった多くの参加者が集う。この会議は、世界各国から集まる宗教者による講演、座談会によって主に構成される。それを盛

二千人以上もの人がローマ広場大会議場に参集した。

今大会の

メインテ

マは『宗教

と平和』で

ある。四日

間の期間中、

このメイン

テーマに沿っ

て、約二十

の座談会が

ローマ各地

で開催された。



ファイナル・セレモニー
於 サンタ・マリア広場



Round Table (座談会)
於 カンピドリオ博物館



仏教徒による「平和の祈り」法要
於 サンタ・マリア広場近く

大なオープニングセレモニーとファイナルセレモニーが、初日のオープニングセレモニーに、一般の参加者も含めて

松永然道SOTO禅インターナショナル会長は、大本山永平寺の国際部部長として参加され、『既成宗教と若者たち』というサブテーマの座談会において、若い人達の抱える現代社会における不安、そして増えつつある暴力、怒りをいかにして減少させていくかということについてスピーチされた。

また、第一回から毎年参加されている群馬県長楽寺住職・峯岸正典師は、『一九八六年アッ

シジから一九九六年ローマへく崩れ落ちた壁と世紀末の間で』というテーマで、人との出会い、人類と宗教の出会いの必要性についてスピーチされた。

最終日には、各宗教に分かれて平和の祈りの法要が行われ、ファイナルセレモニーでは各宗派の代表者によって大きな二本のろうそくに火が灯され、サンタ・マリア広場に集まった人達全員により平和が祈念された。

SZIだより

事務局活動日誌

(一九九六年七月〜十二月十九日)

八月二十二日 事務局会 埼玉・行田興徳寺
九月一日 会報八号発刊
九月六日 事務局会 池袋・祥雲寺
九月十八日 役員会 宗務庁・第二ソートービル
十月六日〜十七日 世界宗教者平和の集い イタリア
十月十日 総監連絡会議 東京グランドホテル
十月十六日、十七日 S Z I ワークショップ 静岡県・熱海 新かど旅館
十月二十四日 事務局会 池袋・祥雲寺
十一月六日 宗務庁国際課・事務局連絡会議 宗務庁
十一月五日、二十日 ハワイ満徳寺九〇周年 ハワイ・マウイ満徳寺
十二月二日 会報九号編集打ち合わせ 埼玉・行田興徳寺
十二月十六日 会報九号編集打ち合わせ 埼玉・行田興徳寺
十二月十九日 役員会 大本山総持寺

弔意

大本山総持寺副貫首・余語翠巖老師の遷化に接し、
心からの哀悼の意を表します。

特別寄付

(一九九六年七月十一日〜十一月十八日まで) 敬称略

田村優子 一万円 岩手県岩手郡 宝積寺
南沢道人 二万円 長野県更埴市 竜洞院
青木俊享 一万円 群馬県太田市 岩松寺
金橋国際交流株式会社 二万円
大本山永平寺 五十万円
大本山総持寺 五十万円

新規会員、並びに会員ご継続ありがとうございました。

氏 名		住 所	
青木哲夫	新規会員	東京都	妙清寺
青木俊享		群馬県	岩松寺
荒井禮一		埼玉県	昌福寺
荒澤義範		北海道	中央院
池本宗倫		和歌山県	大泉寺
石川光山	新規会員	富山県	富山専門尼僧堂
石田大龍		埼玉県	龍淵寺
伊藤禪龍		北海道	法徳寺
伊藤治雄		愛知県	万松院
乾宗俊		神奈川県	宗久寺
茨木兆禅		長崎県	西蓮寺
岩田弘之		静岡県	満願寺
鶴飼宏史		愛知県	禅林寺
宇田照彦		東京都	東照寺
大洲久典		愛知県	
大宅弘海		佐賀県	広厳寺
大谷俊定		京都府	苗香寺
大橋幸雄	新規会員	埼玉県	医王寺
大森篤史	新規会員	埼玉県	東栄寺
大八木春邦		山形県	保春寺
長田敬道		静岡県	洗耳寺
尾崎光昭		静岡県	弧雲寺
柿沼仁法		埼玉県	龍泉寺
菊谷之光		山口県	善住寺
岸世一		埼玉県	東竹院
吉川弘眼		東京都	勝興寺
吉川泰俊		茨城県	普舜院
金橋国際交流株式会社	新規会員	東京都	
黒田征利		栃木県	栃木県宗務所第二教区長
黒田武志		神奈川県	善光寺
四戸秀賢		岩手県	宝積寺
篠原鋭一	新規会員	千葉県	長寿院
嶋秀正		愛知県	久岑寺
島崎光雄		北海道	長林寺
氏 名		住 所	
しゃじ企画		秋田県	
栖川隆道		大阪府	妙壽寺
鈴木道雄		秋田県	自性院
寿松木宏毅		秋田県	
館定道		富山県	薬師寺
田中隆道	新規会員	埼玉県	報恩寺
田村優子	新規会員	岩手県	宝積寺
中野東禅		神奈川県	
中野良教		東京都	東禅寺
中村泰潤		青森県	全竜寺
中山敬道		京都府	大松寺
永井成典		愛知県	宝珠寺
長岡俊應		青森県	大安寺
長峰徹志		山形県	福田院
西沢応人		東京都	祥雲寺
西村英寿		兵庫県	長命寺
橋本英樹		埼玉県	見性院
蓮池泰乗		山形県	宗伝寺
篠本宏昌		東京都	泰宗寺
廣田賢也		埼玉県	嶺雲寺
福島松雄		埼玉県	長光寺
福島伸悦		埼玉県	興徳寺
藤沢好文		長野県	観音寺
細川泰徳		東京都	高乗寺
堀口良允		秋田県	歓喜寺
水谷幸晴		静岡県	随松寺
南沢道人		福井県	永平寺
峯岸正典		群馬県	長楽寺
村瀬信行		滋賀県	清涼寺
森嶺雄		埼玉県	松林寺
安野正樹	新規会員	埼玉県	建福寺
山本健善		東京都	
柚木能宜		東京都	東雲寺
渡辺亮正		愛知県	一心寺

96年7月11日〜11月18日までの会費ご入金分 敬称略 音順

「ハワイ・マワイ島満徳寺創立九〇周年法要参拝団の皆様へ」



御礼

満徳寺九〇周年記念行事の禪をきく会並びに法要を十一月十六、十七日に曹洞宗宗務総長・大竹明彦老師はじめ曹洞宗福島県宗務所、三一会並びにSOTO禅インターナショナルの各団体の協力のもと無事円上致しました。この度は特にSZIのりがとうございました。これからの海外との架け橋役としてSZIの役割が益々重要になると確信して居ります。今後更なるご活躍を祈りし、御礼にかえさせて戴きます。

満徳寺開教師・葉貫成悟 九拝

満徳寺創立90周年法要参拝団名簿

福島宗務所関係(敬称略)	大内 平二
寺島彦宗 龍鳳寺住職	佐藤攻 添乗員
金平祖隆 寺族	近藤忍 添乗員
金平壽子 寺族	SOTO禅インターナショナル関係(敬称略)
光英孝修 宝光寺住職	岡野定丸 福島県盛林寺
今井亮修 東照寺住職	西沢応人 東京都祥雲寺
秋山孝雄 長泉寺住職	福田恵文 東京都東禅寺
安倍元海 大慈寺住職	赤松利章 東京都宝泉寺
佐藤滋光 修徳寺住職	佐藤信嗣 東京都石夢工房
二階堂秀雄 常円寺住職	飯田光昭 東京都龍見寺
木町元秀 天性寺住職	飯田洋子 東京都全長寺
竹内昌寛 金昌寺住職	飯田さとえ 東京都長泰寺
浦上良法 西光寺住職	大谷有為 愛知県地蔵寺
浦上宗子 三女	中村尚三 愛知県善篤寺
浦上光子 四女	関岡俊二 東京都高西寺
西野奈江子 義母	上村勇雄 東京都保善寺
三村達道 玉泉寺住職	天利俊宏 神奈川県鳳泉院
三村マサミ 寺族	北条正興 茨城県龍泉院
原瀬隆 檀中	鈴木道雄 秋田県自性院
大野キミ 檀中	飛田正道 新潟県法音寺
葉貫重良 檀中	鈴木豊子 東京都青原寺内
冬室重二 檀中	篠田幸子 愛知県長松院
伊藤備文 檀中	篠田大悟 三重県葉師寺
伊藤エキ 檀中	篠田明快 愛知県興徳寺
糠沢知子 檀中	篠田明快 愛知県興徳寺
鈴木光二 檀中	世古洋子 三重県葉師寺
伊藤次雄 玉泉寺檀中	間宮朋子 愛知県興徳寺
松井次雄 玉泉寺檀中	福島淳子 埼玉県興徳寺
杉原義男 石雲寺檀中	飯島尚之 静岡県宗徳院
小沼利男 檀中	飯島尚之 静岡県宗徳院
菅原正吉 檀中	市原秀彦 JTB添乗員

総会・講演会ご案内

日 時	1997年2月20日(木) 午後12時30分
会 場	東京グランドホテル3階「菊」の間
日 程	午後12時30分 受付開始 午後1時 総会 午後2時30分 講演会 「情報時代と仏教の新たな方向」 講師(交渉中) ※会員の皆様には後日ご通知いたします。 午後4時 休憩 午後4時15分 質疑応答 午後5時 閉会 午後5時30分 懇親会
懇親会費	8,000円 お申し込みは、2月13日(木)までに会計・西沢応人までお願いいたします。尚、当日キャンセルの場合は会費を徴収させていただきます。
申込先	西沢応人 東京都豊島区池袋3-1-6 祥雲寺内 TEL 03-3984-2408 FAX 03-3983-8234

編集後記

十月に行われたワークショップに大先輩の元ハワイ開教師・田宮黎友老師がご参加くださった。その折、田宮師は、孫弟子に当たるアメリカ在住・オコナー洞燃師の某出版社に寄稿した文章を見せて下さった。良寛の遺跡を訪ねた「五合庵 良寛再訪」という感想文である。これは、某社の特集「世界に生きる良寛」として掲載されました。良寛さんの詩歌は、昔を創造する想像力を持っていると言って、良寛さんを本当に愛されていることが窺われる。

道元禪師七五〇回大遠忌が五年後に迫っている。言うまでもないことだが、世界中の多くの人たちが道元禪師を心から慕えるようになったらこんな良いことはないのだが。(伸)

曹洞宗北アメリカ開教75周年記念奉讃 両本山 北米別院 禪宗寺創立75周年記念



ご挨拶

この度、ロスアンゼルスにおきまして、北米開教75周年記念、両大本山北米別院禪宗寺創立75周年の記念式典、並びに「禪を聞く会」を厳修する運びとなりました。この記念法要には、大竹明彦宗務総長老師、南沢道人永平寺監院老師、江川辰三総持寺監院老師を拝請し、また国内の関係者の方々にも多数ご列席いただき、歴史を顧みつつ、北米開教の新時代を迎えたいものと考えております。

この慶祝の勝縁にあたり、共にお祝い申し上げたく、どうぞ多数の方々がご参加くださるよう、お招き申し上げます。

北米開教総監・山下 顕光

日程

平成9年4月18日(金)	北米開教師・伝道教師・寺族コンファレンス 禪宗寺75周年記念晩餐会(ニュー大谷ホテル)
19日(土)	北米開教75周年記念「禪を聞く会」 講師 板橋興宗老師(予定) 永 六輔 氏(予定) 会場 Japann America Theater 75周年慶讃法要
20日(日)	開山歴住諷経 檀信徒総回向(万灯供養) 祝 斎

お問い合わせ

- ・正傳寺(北野良昭老師)
滋賀県高島郡新旭町旭38
TEL 0740-25-2241 FAX 0740-25-6403
- ・ビーエス観光東京営業本部(木村俊一様)
東京都港区新橋2-2-2 川志満ビル
TEL 03-3502-4041 FAX 03-3502-4041
- ・ビーエス観光名古屋営業所
名古屋市中区金山2-1-24五藤ビル5F
TEL 052-332-1261 FAX 052-332-1269